

先駆けを！

夢の実現に向けて！

学校報

望洋

東海大学付属市原望洋高等学校

編集：メディアセンター

2023年3月18日 第148号

第21回 定期演奏会を開催（吹奏楽部）

12月24日(土)、本校吹奏楽部が、市原市市民会館を会場に、第21回定期演奏会を開催しました。今回のスローガンは「超越 ～届け築き上げた響き～」、今までにない最高の音楽を届けようという想いが込められています。今年は、客席の間隔をあけながらも一般のお客様にご来場いただき、市原市立千種中学校吹奏楽部をゲストにお招きしての開催となりました。千種中学校の皆さんとの合同演奏などもあり、最後まで大いに盛り上がりました。千種中学校の皆さん、顧問の館先生(実は本校の卒業)、ありがとうございました。この演奏会で3年生は部活動を引退します。3年間お疲れさまでした。これからの益々の活躍を祈っています。



吹奏楽部 部長 3年1組 吉野 瑛音

12月24日市原市市民会館にて「第21回定期演奏会」を開催しました。今年は3年振りの有観客開催となり沢山の方に聞いて頂くことが出来ました。

私達は「超越～届け 築きあげた響き～」というスローガンを掲げ、今まで以上に演奏を聴いてくださっているお客様へ感動を届けたいと思い、1年間活動してきました。定期演奏会当日は、今の仲間とでしか出来ない最高の演奏になったと思います。

そして3年生は定期演奏会で引退となりました。3年間新型コロナウイルスの影響で活動に制限はありましたが、この日を迎えることが出来た感謝の気持ちを忘れず精一杯演奏することが出来ました。ご来場頂いた皆様、成功に導いてくださった皆様に感謝申し上げます。

東海大学静岡キャンパス・東京キャンパス見学会



1月21日(土)、1,2年生の生徒・保護者から希望を募り、生徒28名・保護者19名で東海大学静岡キャンパス清水校舎を訪問しました。東海大学海洋学部学部長齋藤寛教授、東海大学人文学部人文学科瀧川郁久教授、東海大学スルガベイカレッジ静岡オフィス小池翔太氏から、海洋学部・人文学部・静岡キャンパスでの生活について詳しい説明がありました。また、東海大学海洋科学博物館、東海大学自然史博物館を見学し、海のいきものだけでなく、爬虫類や哺乳類の進化についての興味・関心を深めることができました。

同日、同様に生徒52名・保護者18名で東海大学東京キャンパス高輪校舎情報通信学部を訪れました。学部の説明や施設・設備見学、VR体験などもあり、最先端の技術に触れることもできました。

科学部 Science Meeting に初参加

本校科学部は2023年2月25(土)に、付属浦安高等学校・中等部で開催された Science Meeting に初参加しました。長野県からは付属諏訪高等学校が参加し、全13グループの探究活動・研究活動に関する発表会が行われました。また、発表会の後には交流会が開催され、普段交流することができない付属3校の生徒がコミュニケーションを取る良い機会となりました。今回の発表会・交流会で刺激を受けたことを糧に、研究スキル・発表スキルを磨き、次回の発表会に向けてさらなる精進をしていきたいと思いをします。



第37回 卒業証書授与式を挙行



3月4日(土)、2022年度第37回卒業証書授与式を挙行了しました。今年度は、3年ぶりに講堂で保護者の皆様にもご出席いただき、対面での式典を執り行いました。担任の先導で卒業生が入場し、一人ひとり担任の呼名で校長先生から卒業証書を授与されました。総長賞・生徒会功労賞・三か年皆勤賞の授与、校長告辞・来賓祝辞と続きました。卒業生から学校に卒業記念品が贈呈され、在校生代表による送辞、卒業生代表による答辞が行われ、厳粛な中にも暖かな雰囲気の中での式典が終了しました。卒業生の皆さん、おめでとうございます。これからの益々の活躍に期待します。



各賞受賞者

総長賞	3年4組 式田 英雄
生徒会功労賞	3年3組 伊藤 菜々子
千葉県知事賞	3年4組 須田 和史
千葉県私立中学高等学校協会賞	3年1組 小川 美緒

式典代表者

答辞	3年2組 相生 凜太
送辞・生徒会記念品贈呈者	2年8組 福原 怜音
卒業記念品贈呈者	3年5組 藤平 大介
生徒会記念品受領者	3年8組 濱村 咲希
同窓会資料受領者	3年3組 國米 一成



1 学年対象 卒業生からのメッセージ

3月8日(水)、1学年で12名の先輩を招いて「卒業生からのメッセージ」を実施しました。毎年、大学生や社会人として活躍している先輩に、高校生のうちによっておくべきことや進路についてなど話してもらっています。今年は、講堂で3名の先輩の話聞き、その後、各教室で進路志望などに合わせて希望する先輩の話の話を聞きました。12名の先輩たちは、年代・性別・進路先(学部・学科や職業)などもそれぞれで、生徒たちにとっては幅広く選択することができ、興味を持って聞くことができました。先輩方、お忙しいところ、また遠方から後輩たちのために貴重なお話しをありがとうございました。



研修旅行 (2 学年)

3月上旬、2年生が3年ぶりに研修旅行に行ってきました。コロナ禍前は沖縄に行っていましたが、目的地を広島・大阪・京都に変更して実施しました。先発団は3月6日(月)、後発団は3月7日(火)に出発、1日目は新幹線で広島に行き宮島を見学しました。2日目は広島平和記念公園で被爆者の体験講話を聞き、平和記念資料館を見学しました。その後、新幹線で大阪に移動し、大阪B&Sプログラム(現役大学生の案内による大阪市内見学)に参加しました。3日目はUSJで1日班別行動した後にバスで京都に移動、4日目は半日京都市内を班別行動して新幹線で帰ってきました。



先発団研修旅行委員 2年7組 須藤 寛人

今回の研修旅行は予定していた沖縄ではなく、広島・大阪・京都に変更されました。初めてのことが多くあった研修旅行でしたが、その分多くのことを学びました。私たちはコロナウイルスの影響で大人数での宿泊などの経験が少なく慣れないことも多くありましたが、班員や同部屋の人と協力しあい絆を深めることができました。広島では宮島に行き、運がよく潮が引いており鳥居まで歩いていくことができました。2日目の平和学習では、原爆ドームや平和の鐘を見学した後、被爆者の方の体験談を聞いて原爆の恐ろしさや戦争の悲惨さを知ることができました。また、大阪や京都での班別行動では班員との思い出をたくさん作ることができました。研修旅行を通して仲間と協力することの大切さや、被爆者体験を聞いてそのことを忘れてはいけないと思いました。

後発団研修旅行委員 2年3組 遠藤 優聖

まずは、皆さん多忙な4日間お疲れさまでした。3泊4日で広島・大阪・京都の3つの都市を周り、平和についてや時間厳守の大切さ、集団行動の大変さなど一人一人が色々なことを学び、感じたと思います。また、友だちとコミュニケーションをとる機会が多く、たくさんの思い出ができたかと思います。自分は特に大阪での思い出がすごく印象に残っています。B&Sプログラムでは、大学生ガイドさんを先頭に、とんぼりリバークルーズに乗船し日本橋から浮庭橋までの9つの橋の下を通りながら大阪の街をまわったことや、ユニバーサル・スタジオ・ジャパンでは、ザ・フライング・ダイナソーに乗るために200分待ちをしたことも思い出です。研修旅行で学んだ時間厳守を徹底することなど、これからの私生活に生かしていきたいです。

本年度 離任される教職員

転出

大木 洋幸 事務長

退職

田中 昇 校長 (保健体育科) 齋藤 美由起 教諭 (国語科) 伊地知 しおみ 教諭 (芸術科)

山下 竜也 教諭 (数学科) 北崎 裕基 教諭 (国語科) 浅沼 順子 教諭 (国語科) 田邊 弘之 教諭 (英語科)

大木 洋幸 事務長

望洋と出会えて良かった。3年前のコロナ禍と共に望洋高校へ異動し市原で過ごしました。この春、法人本部理事長室へ転勤することになりましたが、ここでの様々な経験からは多くのことを学びました。生徒から活力をもらい、先生の情深い指導に触れ、保護者からは温かい思いやりを学ばせて頂きました。望洋は優しく朗らかな良い学校だと思います。

“一期一会”に感謝申し上げる共に望洋のミライと皆さんのご活躍を祈念します。

浅沼 順子 教諭

皆様、今まで素晴らしいひとときをありがとうございました。望洋は格別に素直で明るく前向きな生徒さんが多いのでいつもワクワクしながら教室に向かっていました。

心ばかりの御礼に私の好きな言葉を紹介します。『「他人」と「過去」は変えられないが「自分」と「未来」は変えられる。(エリック・バーン)』です。目の前のことにも小さな努力を積み重ね、日々前進して夢を叶えてくださいね。その日までずっと応援しています。

北崎 裕基 教諭

三年間という短い間でしたが、担当した生徒たちに恵まれ、充実した日々を過ごさせていただきました。ありがとうございます。賑やかでそれぞれ違った色がある教室に四月からは足を運べないことを考えると正直、寂しいです。ですが、望洋高校で得たものを糧として成長した姿をお見せすることが一番の恩返しになると思っています。皆さんとまた会えることを楽しみに、これからも精進していきます。三年間、大変お世話になりました。

山下 竜也 教諭

私は5年間、望洋高校で教師として働いておりましたが、非常にたくさんの出会いと感動を頂きました。「今の行動はすべて未来の自分の伏線になる。」私が好きな言葉です。

失敗を理由に挑戦しないのは勿体無いです。どんな結果になったとしても未来の自分を作る大切な経験になるはずです。

私も色々なことにチャレンジしていきます。あっという間の5年間でした。ありがとうございました。

伊地知 しおみ 教諭

私が、初めてここ望洋高校に美術の非常勤講師として来た頃は、精華女子高等学校でした。その後すぐに校名が望洋高校に変わり、女子高から男女共学へ！男子の比率が高く戸惑ったのを、今でも覚えています。まだ、パソコンもスマホも普及してない時代でしたので、時間の流れもゆったりとしていましたし、多分人数が多かったせいもあるかもしれませんが活気に満ち溢れていました。実技教科ですが、一クラス50人越えのこともありました。

望洋になり37年間に世の中はかなり変化し、地震や台風などの自然災害も危惧されます。人も学校も、それに応じて柔軟に変化し、たくましく生き抜いていかないといけない時代になったのだなと感じます。一步一步力強く明るい未来に向かって歩いていかれる事を、心から願っています。

最後に、美術部ですが、美術館めぐりや建学祭のモニュメント・地元TVのスタジオ制作・牧場の看板などなど、本当にたくさんの楽しかった思い出が詰まっています。卒業生の中には、美術の道を歩んでいる者も何人かいます。私も部員たちもたくさんの刺激を受けました。同窓生として、応援して貰えたら嬉しいです。

この広い世界の中で、この望洋高校で、皆さんと出会うことが出来、一緒に時間を過ごすことが出来て幸せでした。有難うございました。

齋藤 美由起 教諭

精華女子高等学校(現:市原望洋高校の前身)の門をくぐり、Long ago in Meiji, Oaks were turning green When' by Tsunohazu 's spring. . . . Seika, our Seika, Dear Thy name! と校歌をうたい、青春を謳歌した母校の教壇に立ち、その道を歩き続けることができましたことに深く感謝いたします。

教育の原点を教えられた「入学式」、花束の黄色のガーベラはクラス生徒の数。大雪が降り午後の式典となった時間は、生徒と私への天からの贈り物でした。その卒業記念の桜は春を待ち枝先が紅色に染まりだしています。教え子語録から「勝つことより団結」の体育祭、「結果より過程」の建学祭、自己紹介で「僕は卒業式の日で大粒の涙を流します」。「研修旅行はピンクのドレスで来て」「僕が甲子園に連れていく」。(聖地へ3度) 日常で交わした言葉の数々が退職の前にして紡がれます。バトン部での世界大会出場などは世界観・人生観が大きく変りました。また、消防音楽隊の方々とパレードで市内を歩き、声をかけてくださった方々の姿。病院や支援学校でのクリスマス。また、千葉県私学国語科研修会での『羅生門』での演劇を取り入れた授業。「子どもたちとともに希望を星につないでゆきたい」と誓った新人研修から、あと数日で教員生活の緞帳が下りる時がまいりました。出逢った方々に感謝するとともに、東海大学付属市原望洋高校のご発展をお祈りいたします。

門出でて 振りむく園の 桜かな

田中 昇 校長

歩いてきた道

2023年が明け、令和ももう5年目を迎えたんだと時の流れの速さを感じた1月からすでに3月を迎えている。大学を卒業し東海大学の一員として歩き出してから今日までを振り返ると40年という月日が経っていることに気づく。

坂村真民という詩人が“念ずれば花開く”と言う言葉を詩の中に唱えた。その言葉は母親が愚痴の代わりに口ずさんでいた八字十音の真言でした。

念ずれば
花ひらく

苦しいとき
母がいつも口にしていた
このことばを
わたしもいつごろからか
となえるようになった
そうして
そのたび
わたしの花が
ふしぎと

ひとつ
ひとつ
ひらいていった

12年前、熊本第二高校に赴任した時、バイパス沿いのホームセンターの脇の御影石に力強く刻まれた石碑「念ずれば花ひらく」に出会った。私は鳥肌が立った。東日本大震災では多くの命が津波によって奪われた。信州の地であっても驚くほど揺れたことを今でも覚えている。あれから12年。

長き教員生活にお別れをする時を迎えている。今でも苦しいとき私はこの言葉を唱える。「愚痴を言って幸せになった人はいないのだから・・・。」と心でいつも念じていた。

私は、教師になりたくてこの道を歩いてきた。長い長い教師の道は40年歩いたことになる。道は平坦ではなかった。歩みの遅いときもあったが、なぜか前へ、前へと踏み出すことができた。試練と言う壁も何度か巡ってきた。しかし、「教師を辞めたい。」と思ったことは今日まで一度もなかった。前方から希望という光が足元を照らして引っ張ってくれていたように思える。教員としてのステージもあとわずかとなったが、学び舎を去ることに実感が湧いてこないのは、やっぱり生徒が好き、学校が好き、そして、先生が好きだからだと思う。共にスクラムを組むことができたことは何よりの感謝である。

東海大学の職員として歩き出した道は、湘南校舎から今日まで6ヶ所目を数える。湘南校舎、望星学塾、諏訪高校、デンマーク校、熊本星翔高校、そして市原望洋高校である。諏訪高校へは延べ三回赴任したことになる。何より嬉しかったことは言うまでもなく、東海大学創立者である松前重義博士の歩いた道を歩くことができたことだ。感謝の気持ちでいっぱいである。

本学園の教育の源流であるデンマークでの生活、教育活動の始まりである望星学塾、松前柔道塾で汗を流した。早朝玉川上水道脇を先生の愛犬セントバーナードのヨハンナと散歩したことも懐かしい思い出である。松前先生の生誕の地である熊本の地に立ち龍田霊園から九州キャンパスと二高の校舎を見た時「俺はなんて幸せ者なんだ。」涙がとめどなく溢れた。そして、もう一つ嬉しいことがある。望洋高校の校長になれたことである。望洋高校の前身は精華高校であり、校長を務めた内村鑑三先生と校名は変われども、同じ学校の校長になったことである。松前先生が感銘を受けた内村鑑三先生の教えに習って、後世へ繋げる若者への教育に携わることができた。また、デンマーク校にも赴任できた。デンマークでは、デンマークの復興の父ニコラ・F・グルントヴィ教会に行き拝礼をした。40年間の教員生活はワクワクの連続であった。今もその気持ちは変わらない。これからもこの気持ちを大切に歩んで行きたい。

四季折々の景色を見ては生きている喜びを感じる。望洋高校で3回の桜の満開をウグイスの声を聴きながら、校長室の窓から見ることもできた。これからもきっと桜を見るたびに思い出さるだろう。櫛の巨木を見たら湘南校舎のケヤキ並木を思い出し、クスノキを見たら望洋高校のシンボルであるクスノキの巨木を思い出さるだろう。私の心を支えてくれた大好きな木である。

私は、15歳から東海大学と共に歩き、50年今年で半世紀の月日を数える。長い道を歩いてきた。人生のナビゲーションは常に自分の心の中にあった。道にはいろいろあった。近道、上り坂、下り坂、まさかという坂もあった。遠回りをしたこともあった。信州から自分なりの大志を抱いた人生の地図に多くの道が描かれて広がっていった。人生の地図が完成するのはいつだろうか。未だ旅の途中である。

結びに、望洋高校で出会った生徒諸君、教職員の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。そして、本校教諭であった横山了先生、校長代理池田信一先生に心より哀悼の意を捧げます。

東海大学付属市原望洋高等学校が私の6ヶ所目の故郷になりました。今後の発展を祈り退職の言葉にいたします。長きにわたりお世話になりました。

離任される先生方、長い間本校の教育にご尽力いただきありがとうございました。今後の皆様方のご健康とご多幸、ご活躍を祈念いたします。